



友情とやく進

新春に想う

浜松第18団副団委員長 池谷 直次



新年明けまして、お目出
 とう御座居ます。本年も、
 皆様にとって、良い年であ
 ります様、お祈り申し上げ
 ます。

育成会員になって今日ま
 で、過ぎて来た日々をふり
 返って想います事は、息子

が18団のスカウトとして活動を始めましたのをき
 っかけに、私も、子供と一しょになって、さまざ
 まの活動に参加させて頂き、今、親子の断絶とか
 言われる世の中でも、子供との交流が大変スム
 ースに行き、これもスカウト活動を親子で体験した
 たまものと、感謝の気持で一ぱいです。

さて、私の18団は、昭和58年12月に、韓国ボー
 イスカウトソウル7団と姉妹結縁を結び、4年の
 年月が過ぎました。この間、お互いのスカウト交換
 役員、リーダーの交流等、両国の交友を深めまし

た。リーダー、役員、スカウト共、相互の心と体
 のふれ合いの中から、信頼と、希望と、勇気を与
 えられ、なお一そうスカウト活動に励んで居ります。

昨年8月には、第5回日本アグーナリー（全
 国障害スカウトキャンプ大会）に、韓国の障害ス
 カウトが参加しているのを聞き、御殿場に団委員
 長と共に訪問。大変喜ばれました。この折にもス
 カウト達が、身体の障害にも負けず、何事にも一
 しょうけんめい活動しているのに心をうたれました。

ボーイスカウトの様な社会教育は、親と子の心
 のふれ合いがなくてはなり立ちません。子供だけ
 をスカウトに入れ、親は知らぬ顔では、よいスカ
 ウトは育ちません。子供は子供、親は親としての
 役割りを果たすためにも、ボーイスカウト運動に、
 積極的に参加致しましょう。

私も、新しい年に際し、子供達のため自分のた
 めに頑張りたいと思います。

昭和63年年頭を迎えて

B S 浜松地区協議会長 柳本 冬彦



私たち浜松のボーイスカウト関係者にとって、旧年は大変な年でした。そして、大変であったからこそ、大事な年であったと思います。決して忘れてはならない年でした。

スカウティングとは何であったのか、教育とは、訓練とは、そして、安全とは、一つ一つ問い直し、確かめながら、地区の諸君が夫々手を繋ぎあわせ、お互いを信じあって、歩き続けて来たことを、有難く嬉しく感謝事しあげます。

スカウト活動は関係の人々の善意によって成り立っております。しかし、単なるボランティア活動ではありません。ベーデンパウエルによって創始され、長年に亙る歴史と世界各国での実践に支えられ、理論づけられた教育活動であります。従って、スカウターはボランティアであるとともにスカウト教育のプロフェッショナルでなくてはなりません。だから、指導者教育に力を注いでいるのです。研修会だ講習会だとやかましく、ウッドバッチャーであるとかないとかと、資格のことを喧しく云々するのです。教育は善意だけでは出来ないのです。基礎造りのための理論実践教育による資格づけと、生涯に亙る自発的学習の支援がどうしても必要となってまいります。そして、そのことを一番厳密に実行して来たのが、私たちのスカウト教育であったと思います。失敗に顔を背けることなく、深い反省を繰り返しながら、原点を問い直して行かなくてはなりません。選んだ道であります。誓った道であります。諸君とともに歩き続けて参りましょう。

浜松地区活性化のために色々なご意見があります。真剣に考えて下さい。誰もが当事者意識を持っていただかなくてはなりません。他人のことでなく、そこで自分は何をすべきか。口先だけでなく態度の変容として示すべきであります。勇気はそのためのものと信じます。そして、痛感します。老兵の去るべき時がまいりました。

地区事務長 中島 繁光



もっと元手をかけよう。
時間と、お金と、労力を、
スカウティングに、もっと元手をかけよう。
私も、あなたも、
いろいろな研修にでかけよう。

講習会、研修所、特修所、実修所……。

私のために、あなたのために。

たくさんの本を読もう。

朝も、昼も、夜も、
多くの人の話をきこう。

知識が、知恵になりますように。

学力が、喜びになる。

かけた時間が、実感になる。

つかったお金が、ふえていく。

私のところで、あなたのところで。

私の情熱と、あなたの情熱と、

迷る熱意が、激しく、交錯し、

新しい流れが、未来へ駆けぬける。

私からあなたへ、あなたから私へ。

この運動のすばらしさと、意義を、

正しく知るまでは、

続けよう、続けよう。

私も、あなたも。

もっともっと、元手をかけよう。

私の子供達のために。

あなたの子供達のために。

今できることを、今しよう。

しなければならない事と、

しつづけなければならない事を。

したくても、できない時が来る前に。

私から、あなたへ、伝えたいことがある。

あなたから、私へ、伝えてほしいことがある。

いつの世も。いつまでも。

昭和62年度・県連組織拡大会議開かる

昭和62年11月22日(日)・袋井市南部公民館

会議は、次の通り行われた。

1. 開会式
2. 県連登録人口の状況についての報告
3. 基調講演 (内田 嘉一氏)
4. グループ討議 (四つの班に分かれて)
「組織拡大・今我々が出来ることは何か」
5. 閉会式

次に主な会議の内容について記してみる。

- ・ a. 県連登録人口の状況についての報告
幾つかの表を資料に県の登録状況について話が進められた。(別表・省略)
- ・ b. 基調講演より
講師とBSとの関わりから、B-Pの生い立ち、略歴と目指したことについて分かりやすく話を進められた。次いで、日本に於けるBS活動の歴史を話された。強調されたことは、少年達を「よき青年に、よき大人に、そして平和の愛好者に育てよう。」と言うことであった。要するに、
 - ・ 人材育成のための活動団体であること
 - ・ 二大制度(班・進歩)の重要性の見直し
 - ・ BS活動に対する知識不足

c. グループ討議の結果出されたこと

(課題含む)

- ・ BS活動のPR (広報誌の活用を)
- ・ 指導者の確保 (OBをリーダーに)
- ・ CS→BS (→SS→RS)を確実に
- ・ 魅力ある隊活動の展開を
- ・ リーダー・団委員の養成と質の向上を
- ・ ガキ大将作り→班制度の強化
- ・ 募集 (学校へ・一日体験入隊・口こみ等)
- ・ 親の協力の範囲の明確化
- ・ ビーバー隊の発足 (入隊の勧誘)
- ・ 各地のイベントに参加
- ・ 隊集会への招待 (親・兄弟も合わせて)
- ・ 県連単位でテレビ・新聞等へ出してもらう
- ・ プログラムの魅力化
- ・ 中身をよくする (健全に・親子にとって)
- ・ 他団体との相違点を認識して戴く

d. 指導講評

- ・ リーダー・団委員で何かを再認識せよ。
- ・ 会議を開催することのメリットを考えたい。

※浜松地区よりの参加は講師を含めて5名だった。

(文責 黒柳)

第9回 子供フェスティバル

浜松地区野営行事副委員長 斎藤 元司



何時も駐車場係りなので、私が書くのは少し変かも知れませんが、感想を一言。

キャンポリーだ、地区大会だと云えば、必ず奉仕に出て来てくれる野営行事の皆さんには本当に御苦労様です。今回の子供フェスティバルについても毎年の事やら、ありがとうございました。

何と云ってもハングライダーとモンキーブリッジは名物ですので、毎年、子供達が待っているのが実情です。ですから来年も御苦労さまですが、前の日に奉仕して頂かなくてはなりません。とは云え子供達の嬉しそうな顔を見ていると、矢張り「よかったな」と思います。昼食の時、食べ終って一回りしてみようと思い一番端から見て歩きました。ガールさんのバンブーダンス、子供会の暗夜行路等楽しい催し物が有り、トランポリンも中々の人気でした。ゲートボールも楽しそうにやっていました。

地区大会の時に目を付けて「野営行事委員長の木村さん、副の吉田さん、野田さん、私が交渉して「子供フェスティバルに出て欲しい」と頼み、心良く引き受けてくれた各団の各々の出し物も、成功したと思います。改めてお礼を申します。来

年も亦、頼むかも知れません。幕明け早々に整理券が全部無くなったハングライダーが、半日で止むを得ず中止になったのは残念ですが、来年はもっと上手にセットして整理券を持っている子供達が全て満足する様にしたいと思います。

ともあれ、明日晴れないと折角設営しても無駄になるなあ等と言い乍ら、一生懸命になって設営した皆さんのコミュニケーションは素晴らしいものです。終りになりましたが、明るく、可愛い、ガールさんがこんなに来て居るのに、少ししか来ないスカウト達の姿に、少し淋しさを感じるのは私だけでしょいか。



写真コンテスト 入賞者

スカウトの部



友情とやく進 6団 中野良治

成人の部



スカウト原人? 19団 鈴木正雄



募金活動「ハイ御苦労さま」 14団 片山和夫



力を出して 22団 稲垣 紘一



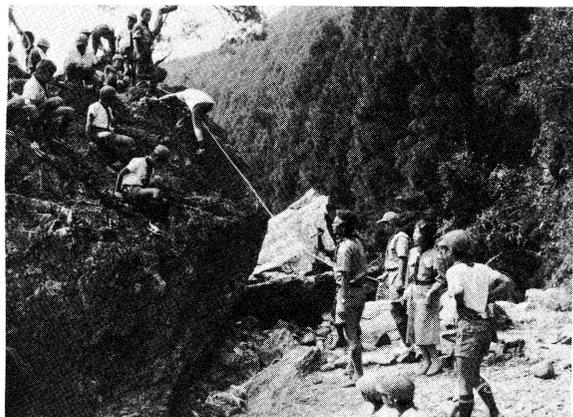
ころぶなよー 19団 鈴木 陽子



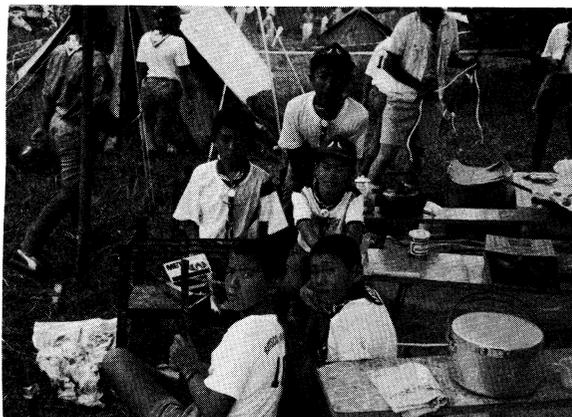
おいしくできたよ 細江1団 内山 浩司



どうもありがとう(30周年記念) 7団 村上 通夫



大丈夫か…… 19団 原野 照子



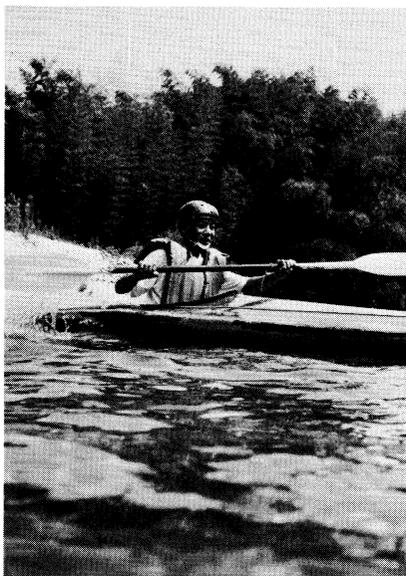
うまく火がつくかな 16団 渡辺 興司



表 彰 26団 今井久子



どうやるの 19団 大石久美子



カヌーにチャレンジ 6団 寺本 昇



いつも元気 6団 鈴木保幸



ぼくらは仲間 22団 有川 允



机木を当てなくちゃ 14団 高橋正行



竹細工 細江1団 山中典子



加藤修一



本間慎吾



原野照子



鶴見郁子



宮沢広士



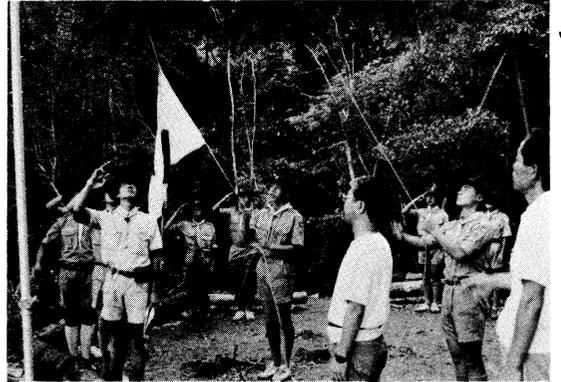
佐藤千代子



名倉惣一郎



小栗敏郎



谷川正敏

静岡県連盟主催 **ボーイスカウト安全講習会**（西部会場）より

日時・場所 昭和62年12月6日(日) 9:30~16:30・浜松市立曳馬公民館

講師・参加者 大須賀和美県連副コミ他5名・県西部の各団より及び東京港地区(47名)

講師陣、本部員の指導・協力により、BS安全講習会が開催されました。次に、講義の資料及び内容から主な点を抽出し御紹介致します。

1. スカウティングと安全

危険の分析及び事故の原因

A. スカウティングと安全

- ・一度事故が起きてしまうと楽しい筈のスカウト活動も一転して暗いものになってしまいます。指導者は、何よりも安全の基本的な考え方を身に付けて貰う必要があります。
- ・救急法について
一旦起きた事故を大事に至らせない為の応急的な措置であり、事故を防ぐ為の方法ではありません。
- ・スカウト活動という安全対策
これは、事故を起こさない為に行う安全対策のことであります。

スカウト活動は、積極的に活動することで少年達の冒険心を満足させ、心身の健全な発達と社会性を養うことを目的としています。

大人の立場で十分な安全を確保した上で、少年達の立場からは危険に挑戦するという図式がスカウティングであるべきです。従って、指導者は常に安全が総べてに優先することを肝に銘じておかなければなりません。

B. 危険の分析

何もしないでじっとしていれば、事故にあうこともないでしょう。然し、人間特に青少年の成長、発達は動くことによって促されるものです。行動が活発になればなる程、いろいろな障害と関わり合い、危険にさらされて来ます。その行動の中で、危険の程度が、その人の制御能力の範囲であれば、それは安全であり、その能力を越えるとき、事故や災害にも繋がり危険と言えます。

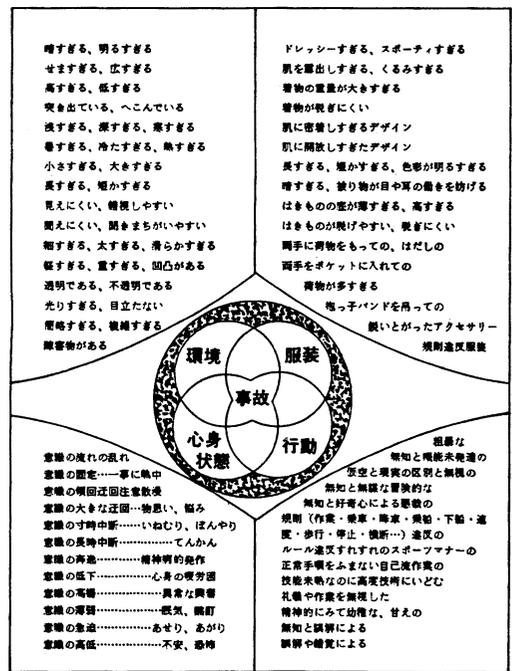
- ・安全な状態をどのように確保するか。
- ・危険の可能性をどんな方法で取り除くか。
この様な事故を未然に防ぐ為に検討をするとともに、
- ・外部環境の安全化を図る事が重要となります。
人災を未然に防ごうとするスカウト活動の安全教育の狙いは、

潜在危険→事故→災害

という事故発生のからくりを、予知・予測し発見し、これに対処して安全を確保する能力を養い、事故防止に役立てようとするものであります。

ところで、潜在危険についてみると、大別して行動、心身の状態、服装、環境の四つに分けることが出来ます。

★潜在危険のチェックポイント★



編者一監修『安全教育の科学』より

C. 『事故傾向児』

スカウトの中には、事故を起こし易い子供つまり「事故傾向児」がいます。この様な子供には十分な注意を払い事故を未然に防ん様にしなければいけません。

「あっ、また、あいつやっちゃった。」

「あれ、また、怪我したの。」

「どうも、あの子が来ると集会がおかしくなっちゃう。」

「あの班が、ガタガタになったのは、〇〇君が原因じゃないか……。」

この様な子供を「事故傾向児」といい、こうした子供には指導者の指示伝達が行われにくいのです。従って「言ったからよい」という安易な考え方は持つべきではありません。
(以下 次号)

浜松第21団

奥山半僧坊での舎営

カブ隊しか 内山 佳範(和田小学校4年)

11月22・23日に、方こう寺へ行きました。バスからおりて、ずっと歩いて行きました。はじめのペースは早かったんだけど、あつくなつたので、だんだんペースがおちました。お父さんが、「早く行け」と言ったので、走ったらよけいにあつくなりました。足はガク・ガク・でとても痛かったです。でもビリしゅう団になりたくなかつたので、少しペースを早めました。休けいの所でようやくおいつきました。そして、すすきを取りながら行ったので、みんなのペースについて行くことができました。夜の食事は、5品と、みそ汁と、たくわんでした。おいしそうと思って、食べると、にんじんはすっぱいし、とうふはかたいし、こんにゃくはつるつるすべりました。みんな、「にんじんすっぱいね」と言っていました。ほんとうににんじんはすっぱかったです。ふくろう作りは、思ったよりむつかしくって、毛がボサ！ボサ！して、やりにくかったです。

おフロはせんとうみたいでした。みんなと入ったので、とても楽しかったです。

奥山半僧坊での舎営

カブ隊くま 服部 修(小学校5年)

11月22日に、バスで奥山けんしゅうじょへ行きました。けんしゅうじょへ着くと、荷物を置いて、



ハイキングに行く用意をして出発しました。このハイキングは、思っていたよりずっとつかれ、息をハア、ハアさせながら、歩きました。でも、道のまわりには、木や草がたくさんあり、つかれがどこかへとんでいってしまい

そうなぐらい、きれいだと、思いました。

そこから、もう少し行った所に、公園のような、しばふが広がっている所があり、そこで、隊長が、「おひるだよ」と言ったので、いそいでカブ弁を食べました。カブ弁は、とてもおいしいので、もうむちゅうで食べました。

それから、何分かつたら、団長が「もう出発するよ」と、言ったのでこんどは、けんしゅうじょへもどる道を、とおって行きました。その道のまわりは、すすきの葉があり、とてもきれいだった。あとちょっと、あとちょっと、と思いつつ歩いて行くと、ついに、けんしゅうじょが見えてきました。みんな、走って行きました。ついた時は、われながらよくできた。思いました。また、きかいがあつたら奥山へハイキングに行きたいと思ひます。

静岡県キャンポリーに参加して

ボーイ隊 高橋 敏彰(天竜中学2年)

ぼくは、このキャンポリーが班長になって初めてのキャンプだった。班員は1人欠席しただけで5人参加してまずまずだった。

このキャンプ生活で学んだことは、協力することだった。1つの食たく台を作るにも、1人ではできない。重いばく材をかくしばりや、くむときも、1人が気をゆるめればぐらついて、しばれずがっちりしたものができない。これからは、こういった経験を生かし、班員が協力しあえるようにしたい。

静岡県キャンポリーに参加して

ボーイ隊 小池 典宏(天竜中学1年)

日本ジャンポリーにいったけいけんをいかしこのキャンポリーにのぞんだ。

一日目、設えいするとき、テントはよかったけれど、食たくフライがしっぱいしてしまいました。フライの中に水がたまってしまいました。二日目、そのしっぱいたフライを、隊長たちのフライみたくになおした。そうしたらうまうまいった。それとたなをつくった。三日目、とりいをつくったがこれはあまりよくなかつた。

全部の日に雨がふつたけれど、しっかりせいびがととのっていたので、雨は気にならなかつた。

これからも、この経験をいかしてがんばりたい。

ぼくらのスカウティング*浜松西小地区*

浜松第14団

お母さん方ありがとう

カブ隊 鈴木 健一(広沢小5年)

きょうは団バザー、セレモニーでは、くま章と、金矢章と銀矢章を、2つもらった。とてもうれしかった。うさぎやかにくらべて、むずかしかったから、なかなかとれなかった。セレモニーが終って、母にもらった食券をもって、ぼくたち三組のお母さんたちの、フランクフルト売り場に行った。大きな鉄ばんの上に、フランクフルトが、いっぱい「いらっしやい、いらっしやい」と、三組のお母さんたちが言っていました。とてもおいしかった。

閉会式では、回れ右をして、お手伝いをしてくれたお母さんたちに、「ありがとうございました」とみんなで言いました。団委員長が、「ありがとう。ごめんなさい。」は日本のれいぎだと、言っています。



"とてもおいしかった、団バザー"

カブ隊くま 杉村 昌哉(佐鳴台小5年)

11月23日、まるで団バザーのためのように、とても晴れていた。

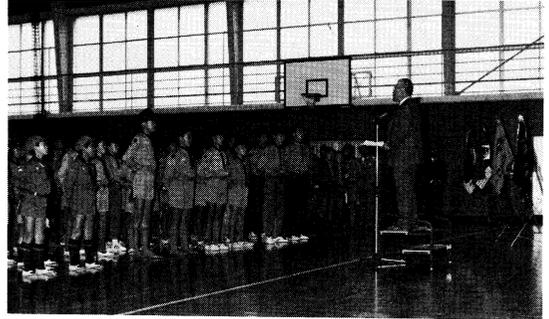
お母さん方は、いっしょうけんめいにバザーのしたくをしていた。だからきっと食べ物はおいしいのではないかと思った。食べてみたら、やっぱりとてもおいしかった。特におでんがおいしかった。

バザーは、売り物と、食券で買う食べ物があったけれど、ぼくは、食券で買う食べ物の方が好きだった。みんないろいろな物を買ったり、食べたりしていた。とても楽しそうだった。ぼくもとても楽しかった。もっと長くバザーをやりたかったけれど時間はどんどん過ぎて終わってしまった。

なにか、今日は、時間のたつのが早いように感じた。たぶん楽しかったからだろう。

カブ最後のこのバザーはよい思い出になると思う。

浜松第19団



ごあいさつ

団委員長 渥美 俊策

私どもの浜松第19団は昭和43年9月に結成されました。去る12月13日宮沢地区副委員長、玉木コミッショナー始め友団の皆様方及び多数の御来賓の方々の御臨席を頂き神久呂公民館において発団20周年記念式典を挙行政致しました。光栄な20周年を迎える時に居合わせた事を大変幸福なことと喜んで居ります。先輩の方々の努力によって今日を迎える事が出来ました。私共は此の伝統を今後も長く続けるよう活動して参ります。今後共御指導御鞭撻賜りますよう御願ひ申し上げます。



浜松第25団

引佐第2団

カブスカウトに入って

カブ隊くま 中西 晃雄(北庄内小学校5年)

カブスカウトになって、とてもいい事もあったし、なかったりしました。夏のキャンプの時の魚つり、水あそび、皆んなで水をかけあって遊びました。学校の部活動と重なって、全部の隊集會に参加ができなくて、とても残念な事もありました。皆んなで本立てを作った時はとても楽しかったです。ノコギリやトンカチを使い作りましたが、釘がまっすぐに打てずとても大変な思いをしました。でき上った時はやったあー。と思いました。竹工作の時もナイフの使い方を教えてもらいながら作りました。

スキーの隊集會が又あります。とても楽しみです。まだまだ知らない事を教えてもらいながら、あともう少しのカブスカウトの月日を大切に過ごしたいです。



カブスカウト活動でカレーライスを作ったこと

カブ隊くま 佐藤加志吾(北庄内小5年)

10月4日の隊集會で、カレーライスを作りました。じゃがいもや、にんじん、玉ねぎ、お肉、カレー粉はおかあさんたちが用意してくれました。9時に公会堂に集まって、さっそく作り出しました。おいしいカレーライスが作ればいいな、と思いました。最初に、はんごうでお米を洗いました。少し水を入れて洗うとよいとわかりました。火に、はんごうをかけました。ぼくは、これではんごうを使ったのが2回めだったので、よく知っていました。あわが出たら、弱火にする。そして、全部あわが出たら、火を消してしばらくむらしてでき上がりでした。ぼくはカレーの方はやりませんでしたが、カレーの方もうまくできてよかったです。そして、みんなは、カレーライスをなんばいもおかわりをしました。そして後片づけをして、11時ごろに帰りました。

たのしいつりたいかい

小学校2年)

きょねんのハゼつり大かいは、ちっともつれなくてつまらなかつたけど、こしはちいさいけれどよくつれたので、とてもたのしかつた。カニがつれたのは、ぼくひとりだつた。だんいんちようからひょうしょうされたのでうれしかつた。

キャンプ

ビーバーたいでやるキャンプなど、学校でやるときよりも、とてもたのしくていい。なぜかというと、じぶんたちではんごうすいさんをしたり、テントをはこんだり、かたづけたりするからだ。

カブスカウトに入って

カブ隊うさぎ 山田 卓(金指小学校3年)

ぼくは、今年から、カブスカウトに入りました。初めてせい服を着た時は、かっこうよくて、りっぱになつた気がして、うれしくなりました。カブ隊で、一番初めに思い出になつたのは、すもう大会です。勝つた時はうれしかつたけど負けた時はくやしかりました。それからほかにも、キャンプや魚つり大会も楽しかりました。それから、ぼくたち古代人でゆみ矢や食きを作つたり、しじみづかいせきに行って、むかしの人の家に入つたらまっくらでした。次に、はくぶつかんに入つたら、マンモスみたいなほねがあつたり、むかしの人がつかつてた食きもありました。むかしはふべんな生活をしてたのだなあとと思いました。カブスカウトに入って、いろいろと楽しい思い出ができて、ためになることをおぼえたりすることができてよかつたと思います。これからがんばつてやつて行きたいと思ひます。

しじみづかいせきを見学して

カブ隊うさぎ 内山 亮(金指小学校3年)

ぼくは、11月28日に、しじみづかいせきを見学しました。はじめにむかしの人の食べた貝のあとを見ました。たい長は、しじみづかいせきの近くにあるさなる湖の湖の所であつた貝といひました。二番目に見たのは、こだい人のむかしの家でした。こだい人の家は、わらで、できていてちゃんと戸までできていました。中に入つて見たけど、くらくて、こんな家で、どうやつて生活をしてるかと思ひました。何年前にできたのだと思ひました。三番目に行つた所は、はくぶつ館でした。はくぶつ館の中には、マンモスのほね、人間のほねとがありました。人間のほねは、長まるいあなのなかにはいひていました。だからぼくは、おほかだと思ひました。はくぶつ館にまだいろいろなものがありました。むかしのオルガンやせんそうのときのでつぼうやいろいろなものがありました。いろいろながわかりました。

ぼくらのスカウティング*浜松南小地区*

浜松第18団

野営に参加して

ボーイ隊 栗沢 祐行(江西中1年)

11月の22日23日と六所神社へ野営に行った。ぼくは、このキャンプでいろいろなことを覚えたと思った。

テントをはる所と、かまどなどを作る所を決めた。テントを立てていて、うまくいかない所や失敗した所が何回かあった。そのたびに、隊長に教わった。

テントはあんがいらくにたつたけど、立ちかまどとフライのはり方がほとんどわからず大へんだ。特にフライは何回もまちがえ、やっとはれたのでうれしかった。

食べ物は班で作る物を決めて、買い出しに行った。夕食はカレーだった。ごはんは、うまくたけたが、カレーは、ものすごく辛くなってしまった。

夕食のあとに、シルバーコンパスの使い方と地図の見方をやってから、みんなそれぞれテントに入った。

ねるのは10時30分ごろだった。

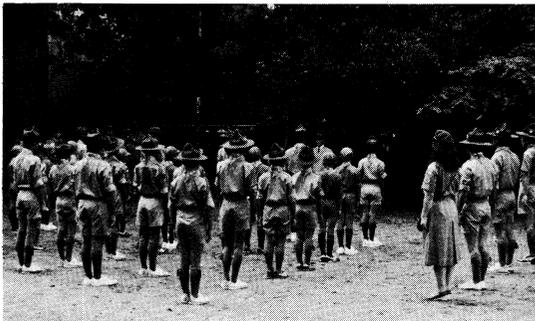
次の日、朝食のあとサッカーをやった。大へん楽しかった。

昼食はチャーハンだった。分量をまちがえた班もあったが、ぼくらの班はうまく行った。

午後、サイクリングに行った。きのうならった地図の見方の実ちと歩測をやって帰ってきた。

そして、てつえいのおきテントの部品をなくしおこられた。でもそのあと見つかった。

たった2日間だったけど、いろいろなことをおぼえた。



太田山キャンプに行つて

カブ隊くま 三宅正太郎(浅間小学校5年)

ぼくが、太田山キャンプに行つて一番思い出に残つたのは、ご飯を自分たちで作つて食べたことです。最初に、かまどを作りました。そして、なべに、コーティングをしました。そのあとに、ぼくが、ねぎを切りました。切っているとき、目がとてもいたかったです。そのとき、ほかのはんの人に、

「正太郎君。切るのがうまいね」といわれ、ぼくは、赤くなりました。



そして、かまどに火をつけました。かまどのけむりは、とても目がいたかったです。そして、お湯がわいてからみそと、だしをいれましたが、みそのりょうがよくわからないので、なんかもいれました。そして、先に切つたものをいれて、できあがりました。それをみんなで食べました。やはり自分たちの作つたのは、とてもおいしかったです。

キャンプに参加して

ボーイ隊 鈴木 利宗(浅間小学校6年)

11月22、23日、ぼくはキャンプに行った。本当は中1の訓練で、ぼくたち6年生は自由参加だったので、仲間を作つて参加することにした。

立ちかまどやテントはりも自分達だけで作るのは初めてだった。先輩や隊長から見たり聞いたりして作つたが、じょうじょうのできだった。夜はシルバーコンパスの正しい使い方を話し合つたりして、1日目がすぎた。

次の日にシルバーコンパスを使って中田島まで自転車で行つたが、少しまよつてしまった。

こういうキャンプでは、一人一人の決められたことをやらないと仲間のめいわくなるので気をつけたいと思った。これからも積極的に参加していろいろな事を学びたいと思う。

楽しいキャンプだった。

移動隊集会で楽しかつたこと

カブ隊 神谷 直孝(浅間小学校5年)

ぼくは、この隊集会でいろいろな遊びや宇宙の星ざのことがよくわかつた。科学館の中で組の友人とスペースシャトルのような乗り物や光センサーで動く物などで勉強になりました。プラネタリウムで冬のせいざでした。星のいちで、人間や動物、形などにかわつていきます。いろいろ楽しく遊べたけど、プラネタリウムが一番勉強になった。星ざの中のアンドロメダの星ざになつたまでの映画やできごとがくわしくのつてあるのでとても楽しく星ざの勉強ができてとてもよかつた。

駅の中も見学した。駅前広場を見て、「もうずいぶんかわつたな」と思った。いろいろな星ざや町の風景などがわかつたとても楽しい一日だった。

浜松第23団

カブスカウトのキャンプ

おやいづ だいすけ(西都台小学校4年)

キャンプで、いちばんたのしかったのは、海で、あそんだことです。うみで、だいの上ののって、手と口をもって、海におとされました。すごいこわかった。しんぞうがどきどきした。でももういちどやってみたいです。こんどまたいきたいです。もっと海で、あそびたい。あとつかいとりたいたいです。夜にキャンプファイヤーをしました。キャンプファイヤーで、たからじまのげきをしました。すごいおもしろいキャンプでした。

「山菜を食べる会に参加して」

父兄 加藤知代子

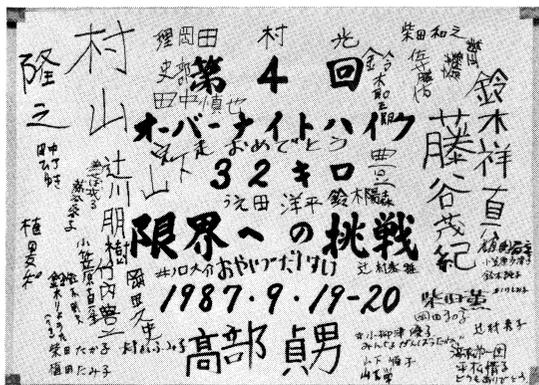
あいにくの雨の日でしたが、子供たちが取ってきてくれた山菜を、おいしく頂きました。どうもありがとうございました。身近にあっても、ふだん家では、なかなか食べた事のない様な山菜を、ああこれもこんな風にすれば食べれるんだなーと感心してしまいました。私たちの班では、天ぷらが、あつという間になくなり、好評でした。家の子ども、柿の葉の天ぷらが、おいしいといって、一生懸命食べていました。山菜も自分たちの手で取ってきたり、竹を割って、おはしを作ったりして、ほんとうに素朴でいいなあと思いました。カブスカウト活動の中で、自分で体験することによって、自然の持っている豊かさ、すばらしさを、わかってほしいと思います。これからも、折に触れ自然の中での活動の機会を多くしてほしいと思います。

カブのキャンプ

田中 慎也(西都台小学校4年)

8月14日～8月16日まで、カブのキャンプに行きました。一色港から船に乗って、佐久島まで行きました。最初の日ハイキングに行って、化石さがしをしました。村山君が化石らしくて、上の所に貝みたいな、あとが残っているのを見つけました。ぼくは、なかなか見つけられませんでした。ねるときマクラなげを、しました。

次の日は、またハイキングがおわってから、海で遊びました。台みたいなどころまで行って、とびこんだり、深い所まで行きました。海はプールとちがって、はく力があるなあと思いました。その日の夜ごはんは、ごはん、とんかつとキャベツなどで、おいしかったです。次の日もハイキングに行きました。行ったところは、神社でお祭が始まろうとしてたところでした。おまいりをしてから、お茶を飲みました。すごくおいしかった。帰りは、船に乗って帰りました。



「オーバーナイトハイクに参加して」

父兄 山下 順子

初めて、ナイトハイクを体験しました。テレビ等で見た事はあるが、自分で参加し完走したのは、初めてでした。私も二男も正直いって、ゴールは最後でしたが、完走できて良かったと思いました。途中で何回も役員さんの車に乗ろうかと思いましたが、今、ここでやめたら、ガンバッテいる二男もこれから先、苦しい事に直面した時、楽な方に助けを求める人になるだろうと思い「人に来て、自分に出来ない事はないから最後までガンバロウ」と二人で話しながら歩きました。足は痛く、小さな石につまずきながら、道がずうっと続いてゴールがないかと思うくらいでした。カブ隊に入隊している長男に「三十二キロ元気で歩いてこいよ」と、口で言うより、ガミガミ母さんが、同じ道を歩いているボクが通った道をお母さんと弟が、ガンバッテ歩いていると思うだけでも、心と心に通じるものが、あると信じます。とてもよい体験でした。

また、次回も参加したいと思います。

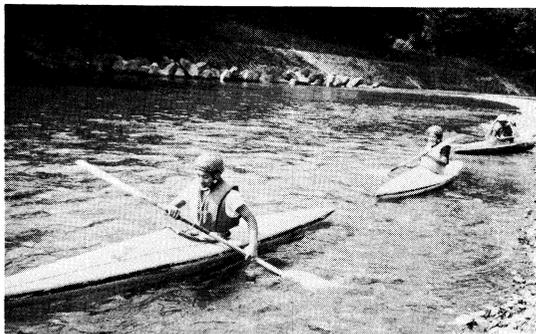
SENIOR DOOR



カヌー気田川下り

浜松6団シニア隊 白柳 憲一

僕たち浜松6団シニア隊は去る10月10・11日の両日カヌーでの気田川下りに挑戦した。昨年のスタート地点の秋葉山下社前を中継点《キャンプ》にして、今回は距離を上流に約10km伸ばし気田川村下流の久里崎橋をスタート地点として、天竜川との合流点に架かる気田川橋までの約23km、標高差約90mを下りぬいた。



10月10日朝、「寒い」という一言で始まった。7時30分の集合はきつかった。隊ルールで装備をトラックに積み込み、いざ出発。初めの目的地の秋

葉山下社前までの道のりはとても長い。川に添って1本の狭い道が続く。9時28分秋葉山下社到着。さっそくキャンプの設営にかかった。空は晴れわたり10月と思えないほど暖かくなった。設営終了後スタート地点の久里崎橋に向った。致致後昼食、休憩をとる。川を見ると、以前練習で下った阿田古川と全然違い、ちょっと不安を感じてしまい「今日はきつい一日になるな」と思った。

カヌーを車から降ろし、着替えを済ませ、ライフジャケットをつけ、ヘルメットをかぶり、着々と準備が進められる。レスキュー用のゴムボートをふくらませ、無線機・救急薬品・着替えなどを積み込んだ。隊長から諸注意を受け、いよいよ出発。前後を先輩にはさまれて進む。最後に隊長とローバーの先輩の乗ったゴムボートがガードする。

流れが急に速くなったり、逆に浅い所ではカヌーをおりてひきづって行かたければならない所が有ったりでスリルを感じた。そんな中で一番恐怖を感じたのは岩だった。流れが急で、水面が白く波立っている所には、その下に岩が有る。「ここは通れるな」と安心して行くと岩にぶつかりカヌーの裏がポコポコと今にも穴が空きそうな音がする。

以下は次号にて

未見への旅立ち

浜松15団シニア隊 富田 哲史(湖東高校3年)

私が富士章を取得して最も感じたことは、この富士章は私だけの物ではなく、私をここまで育ててくれた浜松15団の物だということです。そのようなことを感じるのかと疑問に思う人もいかもしれませんが、自分の素直な気持ちのように感じました。私が入団し、カブ、ボーイ、シニアの各リーダーの指導、良き先輩、友人、後輩との出会い、育成会からの援助など数多くの人達からのバックアップがあったからこそ、今の自分があり、富士章という一つの形である成果が出たと思います。今はただただこの人達への感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを私の心の中にしまっておくだけでなく、今度は私が富士を目指す後輩達を支援し、お世話になった浜松15団に恩返しをしたいと思います。先程、富士章を一つの形と表現しましたが、私はこのことが大切だと思います。富士章は、人生という中では物事の到着地であり、

出発地であると考えます。だからこそ、富士章を取得した事はあまり問題にならないと思います。つまり、人生という鉄道の中では、富士章は一つの駅であるから、停車する人もいれば、停車しない人もいます。私はその中で停車した人なんだから停車によって何を得たのか、体験したのかを理解し再び発車してから、それらを役立てることが大切であり。その役立てる先が社会であり、国であると考えます。私は自分に甘えることなく、未だ見ざる世界へと旅立ち、そこで厳しく現実を見極め、富士章取得で得た数々の貴重な体験を糧として、社会に奉仕し、国のために礎となるように生きていきたいです。このようにしてこそ、本当に富士章が先きてくると 생각합니다。最後に、多くの富士章を目指す若者達(スカウトのみなさん)へ、富士への道は険しく厳しいものです。でも、それにへこたれず、がんばって下さい。たとえ、もし形に成らなくとも気を落とさないで下さい。そこへ行く志が最も大切なんですから。

昭和62年11月30日現在
浜松地区進歩委

太字は各隊の比率を示す

昭和62年度 浜松地区スノボ進歩・進級一覽表

区分	カブスカウト										ボーイスカウト										シニアースカウト										合計							
	小3年		小4年		小5年		小6年		中1年		中2年		中3年		合 計		高1年		高2年		高3年		合 計															
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子														
浜松1	5	7	1	3	5	7	3	31	9	4	4	9				26	5	6		2			13	70														
4	7			6		8	21	14	8	6	4	2				34	4	3					7	62														
6	2	2	2	2	2	6	6	4	2	2	1					9	3	5	3	3		2	13	40														
7	7	7	7	7	7	21	21	6	2	11	2	5				26	8	3	4	6			21	68														
10	1	10	11	11	8	30	30	9	7		9					27	8	1	2	4			15	72														
11	9	9	4	4	10	23	23	3	1	8	6	1	4	1		18	6	1	1	2	4	3	2	19	60													
12	6	6	12	1	7	5	30	9	4	3	1	4	1			22	8	5	6	6	3		22	86														
14	9	12	21	3	4	2	21	4	2	8	5			1	1	23		3					3	68														
15	1	6	7		9	5	20	6	8	8	8					22	3	5	6	6	5	5	19	68														
16	14	2	16	8	5	9	22	5	7	3	3	2				15	4	3	3	3	1	1	11	64														
18				9	3	6	18	8	3	7	1	3	2			25	8	2	4	4	2		16	59														
19	6	9	15	2	17	3	22	9	11	3	7	2	5	2	5	37		8	5	5			13	87														
20								3	3	1				5		12								—	12													
21	6			7	8	21	21	9	5	9	9	7	4			34	7		7	7	8		22	77														
22	7	8	15	7	9	4	20	7	3	4	3	3				20	6	6	2	4			18	73														
23	6	1	8	1	4	20	20	2	8	5						7								27														
24	11	10	21	11	2	4	24	7	8		4					19	8	13	4	4	11		36	100														
25	2			5	4	11	11	4	2	10						16								—	27													
26	1	1	4	1	1	8	8	3	4	1	4	5	2	5	2	19		1		1			2	29														
引佐2	7	11	18	8	6	4	18	4	2	3	2	4				15	2	5	2	4	2		3	54														
細江1	8	2	5	6	7	22	22	7	7	7	7	7				28		5	2	4	2		13	63														
可美1					11	6	22	5		7		9				21	3	5	3				11	54														
合計①	68	69	137	35	115	6	52	95	2	43	83	431	10	127	56	102	9	78	47	9	78	47	20	24	2	475	74	14	70	—	3	46	20	30	20	—	225	1,320
構成比②	49.6	50.4	10.3	8.1	26.7	1.4	12	22	0.5	10	19.3	32.7	2.1	26.7	11.8	21.5	1.9	16.4	10	—	4.2	5	0.4	36	26.7	5.1	25.3	—	1.1	16.6	7.2	10.8	7.2	—	16.9	100		

62年

①	66	59	125	149	—	11	141	—	4	128	—	433	21	114	—	104	59	—	7	97	23	—	2	41	61	17	546	—	29	59	—	52	15	32	20	—	207	1,311	
②	52.8	47.2	9.5	34.4	—	2.5	32.6	—	0.9	29.6	—	33.0	3.9	20.9	—	19.1	10.8	—	1.2	17	8	4.2	—	0.3	7.5	11.2	3.1	41.7	—	14.0	28.5	—	25.1	7.2	15.5	9.7	—	15.8	100
①	68	69	137	64	84	10	84	59	4	62	63	430	14	124	—	81	79	—	8	93	32	—	2	38	57	11	539	20	17	20	—	52	15	30	21	—	225	1,331	
②	49.6	50.4	10.3	14.9	19.6	2.3	19.6	13.7	0.9	14.4	14.6	32.3	2.6	23	—	15	14.7	—	1.5	17.3	5.9	—	0.4	7	10.6	2	40.5	8.9	7.6	31.1	—	23.1	6.7	13.3	9.3	—	16.9	100	

地区のうごき

- 10月14日(水) 小地区リーダー会
 15日(木) 地区協議会(法林寺)
 17日(土)~18日(日) 30th. ジャンボリーオンジ
 ジェアー(青少年の家)
 18日(日) 第201期指導者講習会(引佐町立コ
 ミュニティセンター)
 20日(火) 地区面接・進歩委員会(南部公民館)
 21日(水) 西小地区委員会
 22日(木) 南小地区委員会
 25日(日) S S 技能章(木工章)学習会
 (曳馬公民館)
 11月1日(日) 子供フェスティバル(佐鳴湖公園)
 2日(月) 地区コミ研究集会(玉木宅)
 6日(金) 太田山委員会(法林寺)
 " 東小地区委員会
 8日(日) 東小地区運動会
 9日(月) 地区委員会(法林寺)
 11日(水) 小地区リーダー会
 " 財政委員会(法林寺)
 17日(火) 地区面接(南部公民館)
 18日(水) 西小地区委員会
 25日(水) 団委員長会議(法林寺)
 29日(日) 西小地区募集説明会(青少年の家)
 12月1日(火) 地区コミ研究集会(法林寺)
 4日(金) 東小地区委員会
 6日(日) 安全講習会(西部会場)(曳馬公民館)
 9日(水) 小地区リーダー会
 13日(日) トリック研修会(南部公民館)
 14日(月) 地区委員会(法林寺)
 " 海外派遣壮行会(")
 16日(水) 西小地区委員会
 22日(火) 地区面接(南部公民館)
 1月8日 東小地区委員会
 11日(月) 地区新年会(コンコルド浜松)
 12日(火) 地区コミ研究集会(法林寺)
 13日(水) 小地区リーダー会
 14日(木) 登録事務説明会(法林寺)

- 2月2日(火) 地区コミ研究集会
 5日(金) 東小地区委員会
 7日(日) 第203期指導者講習会
 8日(月) 地区委員会
 10日(水) 小地区リーダー会
 16日(火) 地区面接・進歩委員会
 17日(水) 西小地区委員会
 21日(日) 南小地区B-P祭
 28日(日) 登録事務受付
 3月1日(火) 地区コミ研究集会
 4日(金) 東小地区委員会
 9日(水) 小地区リーダー会
 11日(金) 南小地区委員会
 14日(月) 地区委員会
 16日(水) 西小地区委員会
 19日(土)~20日(日) SS・GS室内集会
 20日(日)~23日(水) 班長訓練野営

これからの予定

- 1月23日(土)~24日(日) 第12回救急法講習会
 26日(火) 南小地区委員会
 29日(金) 地区名誉会議

発行所	第110号
日本ボーイスカウト浜松地区事務所	
〒433 浜松市和合町220-35	
編集発行責任者	渥美俊策
印刷所	三富印刷(株)
昭和63年1月25日発行	